

女性が抱える

健康問題とその予防

第19話

結婚って、何のためにするの？

「結婚って、何のためにするの？」

今、若い世代からこうした問いが頻繁に聞かれるようになっていきます。愛する人と人生をともにすることは尊い。しかし、それが「結婚」という形をとらなければならぬ必然性を、かつては多くの人が感じなくなっているからです。1972年には110万件あった婚姻件数が2024年には推計48万5千件となっています。少子化が進むのは、生まれる子どもの数が減っているからであり、その背景には「そもそも結婚しない人が増えている」という現実があります。

Z世代*を中心とする若者の意識は、明らかに変化しています。結婚願望を持つ人は依然として多数派ですが、結婚に積極的でない人も増えています。経済的不安や仕事との両立、理想のパートナー像への高い期待、さらには「ひ

とりの時間」や「自分らしさ」を重視する価値観が、結婚へのハードルを上げているのです。

また、「結婚＝出産＝幸せ」という古い図式は、すでに通用しなくなっています。事実婚やパートナーシップ制度、多様な家族のあり方への支持は年々高まっており、「籍を入れずとも人生をともにできる」と考える人も少なくありません。

それでも、私は「結婚」という制度が持つ力を軽視すべきではないと思っています。50年ほど前のことですが、私自身、結婚とは何かと真剣に哲学したことがあります。母子家庭で生まれた育った特殊な環境がそうさせたのか、「完全なる結婚」への憧れは人一倍強かったのです。結論を急げば、①子孫の繁栄②「家」の存続③セックスが公然と許される関係④経済生活の効率化

⑤社会的評価⑥老後への保障と安定——いずれも、結婚の決め手にはならず、最終的に私を踏み切らせたのは「とにかく結婚したい」という勢いだったのかも知れません。

最近ちまたで耳にする離婚の原因は性格の不一致と価値観の違い。「性格の」と書きましたが、実は、セックスの不一致である可能性が高いようで、身近に生活している相手の欲求を十分にくみ取ることができないで身勝手な行動をとり続けていると「ハイ、それまでよー」となってしまうのです。

そういう私自身も間もなく後期高齢者の仲間入り。若かりし頃に描いた結婚の条件も色褪せてきた感を否めません。性的能力は衰え、子どもたちも巣

表 結婚の利点の評価点 (赤は未婚>既婚)

(日本家族計画協会：「第9回男女の生活と意識に関する調査」2023)

男性	18～24歳		25～29歳		30～34歳	
	未婚	既婚	未婚	既婚	未婚	既婚
経済的に余裕がもてる	3.11	2.75	2.90	2.86	2.73	3.28
社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	3.38	2.75	3.46	3.23	3.40	3.42
精神的な安らぎの場が得られる	4.25	3.50	3.71	4.27	3.89	4.33
愛情を感じている人と暮らせる	4.37	4.00	4.12	4.64	4.00	4.58
自分の子どもや家族をもてる	4.34	4.00	4.12	4.73	4.07	4.53
性的な充足が得られる	3.57	3.75	3.54	3.55	3.50	3.61
生活上便利になる	3.61	3.25	3.24	3.77	3.33	3.64
親から独立できる	3.65	3.50	3.68	3.45	3.40	3.42
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	3.85	3.50	4.07	4.09	3.80	4.00

女性	18～24歳		25～29歳		30～34歳	
	未婚	既婚	未婚	既婚	未婚	既婚
経済的に余裕がもてる	3.63	3.00	3.53	3.43	3.64	3.65
社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	3.26	2.88	3.63	3.53	3.44	3.63
精神的な安らぎの場が得られる	4.04	4.38	3.97	4.30	3.53	4.19
愛情を感じている人と暮らせる	4.32	4.88	4.24	4.47	3.86	4.32
自分の子どもや家族をもてる	4.32	4.75	4.32	4.70	4.00	4.68
性的な充足が得られる	3.21	4.13	3.29	3.50	3.14	3.35
生活上便利になる	3.48	3.63	3.37	3.73	3.14	3.54
親から独立できる	3.44	3.63	3.74	3.33	3.49	3.60
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	3.67	3.88	4.16	4.13	4.00	4.00

とても利点がある(5)・ある程度利点がある(4)・どちらともいえない(3)・あまり利点はない(2)・まったく利点はない(1)



[執筆者]

北村 邦夫

きたむら くに お

日本家族計画協会 会長

自治医科大学を1期生として卒業後、群馬県庁に在籍する傍ら、群馬大学医学部産科婦人科学教室で臨床を学ぶ。1988年から日本家族計画協会クリニック所長。日本思春期学会名誉会員、日本母性衛生学会名誉会員。2018年より現職。

立ち、経済的にはある程度の安定が図られているとはいえ、マンネリ化しかねない家庭生活。だからまかり間違うと「熟年離婚」などという物騒な事件が起こるのかも知れません。「くわばらくわばら」です。

*1990年代後半から2010年代初頭に生まれた「インターネット環境で育ち、多様性や社会的価値観を重視する」世代